

本調査は、町民の健康づくりについての意識や生活習慣に関する実態を把握し、目標の達成状況や事業の進捗状況を踏まえ、松島町健康増進総合計画の策定に役立てるための基礎資料として実施した。

調査概要

● 調査期間

令和5年11月30日（木）～令和5年12月19日（火）

※集計処理にあたっては、令和6年1月15日着分の調査票まで含めている

● 調査対象

令和5年9月1日時点、町に住所がある20歳以上の町民 1,500人

● 調査方法

郵送による配布・回収

● 回収状況

配布数①	総回収数	有効回収数②	有効回収率 ②/①
1,500	542	542	36.1%

● 調査結果の見方

- ・ n (number of cases) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。
- ・ 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える場合がある。
- ・ 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

「第2次松島町健康増進計画」「松島町自死対策計画」 「第二期松島町歯と口腔の健康づくり基本計画」「第3期松島町食育推進計画」 指標及び数値目標集計結果

「第2次松島町健康増進計画」「松島町自死対策計画」「第二期松島町歯と口腔の健康づくり基本計画」「第3期松島町食育推進計画」において設定している各指標のうち、本年度のアンケート調査結果から結果を算出できるものについて、集計結果を整理している。

なお、「第五次松島町母子福祉計画」の指標については、アンケート調査結果を出典としている項目がないため掲載していない。

(1) 健康増進計画

指 標		ベースライン (2012)	中間値 (2017)	現状値 (2023)	目標値 (2023)	評価 (2012⇒2023)		
栄養・食生活（アルコールを含む）								
1-1	外食と比べて家庭の味つけが薄いと感じる人の割合	成人男性	今後把握	61.0%	52.4%	70.0%	D	* 1
		成人女性	今後把握	63.8%	52.1%	70.0%	D	* 1
1-2	主食・主菜・副菜を組み合わせている人の増加	成人男女	81.8%	91.2% (2016)	74.9%	100.0%	D	
1-3	食品中の塩分カットや糖質ゼロなどの栄養成分表示を「参考している人」の割合の増加	成人男女	54.2%	58.0% (2016)	50.9%	60.0%	D	
1-4	食事の適量を心がけて食べるようにしている人の割合の増加	成人男女	81.6%	88.2% (2016)	81.4%	100.0%	C	
身体活動・運動								
1-5	町の事業に参加したことのある人の割合（過去1年以内）		33.1%	45.9%	7.6%	50.0%	D	
たばこ								
1-6	○喫煙の健康影響に関する知識の普及(成人)	肺がん	今後把握	88.9%	93.5%	100.0%	E	* 2
		ぜんそく	今後把握	76.0%	64.8%	100.0%	E	* 2
		気管支炎	今後把握	76.3%	68.1%	100.0%	E	* 2
		心臓病	今後把握	57.9%	43.2%	100.0%	E	* 2
		脳卒中	今後把握	58.7%	47.6%	100.0%	E	* 2
		胃潰瘍	今後把握	42.5%	22.1%	100.0%	E	* 2
		妊娠等	今後把握	84.1%	72.1%	100.0%	E	* 2
		歯周病	今後把握	50.3%	34.3%	100.0%	E	* 2
		COPD	今後把握	68.7%	34.1%	100.0%	E	* 2
1-7	受動喫煙の機会を有する人の割合の低下	家庭(毎日)	今後把握	13.9%	9.2%	0.0%	B	* 1
		家庭以外	今後把握	13.1%	27.7%	0.0%	D	* 1
こころの健康								
1-8	ストレスを上手に解消できている人の割合の増加(解消方法は問わず)		今後把握	75.7%	77.5%	80.0%	B	* 1
1-9	趣味やスポーツ、ボランティアなどの自主的活動をしている人の割合		今後把握	41.7%	43.9%	50.0%	B	* 1
循環器疾患・糖尿病								
1-10	メタボリックシンドロームの概念を知っている人の割合の増加	成人	62.6%	76.9%	72.0%	80.0%	B	

*1：ベースライン（2012）が未設定のため、中間値（2017）をベースにした評価としている

*2：前回調査（平成29年度健康と生活習慣に関するアンケート）と今回調査の選択肢が異なるため、評価困難としている

(2) 自死対策計画

指 標		ベースライン (2018)	現状値 (2023)	目標値 (2023)	評価 (2018⇒2023)
2-1	睡眠による休養を十分にとれていない人の割合の減少	24.0%(2017)	23.3%	15.0%	B
2-2	ストレスを上手に解消できている人の割合の増加	75.7%(2017)	77.5%	80.0%	B
2-3	趣味やスポーツ、ボランティアなどの自主的活動をしている人の割合の増加	41.7%(2017)	43.9%	50.0%	B
2-4	ゲートキーパーについて知っている・聞いたことがあると答えた町民の割合の増加	10.5%	25.1%	15.0%	A

(3) 歯と口腔の健康づくり基本計画

指 標		ベースライン (2016)	現状値 (2023)	目標値 (2023)	評価 (2016⇒2023)
3-1	80歳以上で20本以上の歯を保持する割合	33.3%	53.3%	50.0%	A
3-2	かかりつけ歯科医を持つ割合	青年期-67.2% 壮年期-79.5% 高齢期-88.7%	青年期-68.2% 壮年期-81.5% 高齢期-85.8%	青年期-70.0% 壮年期-85.0% 高齢期-95.0%	青年期C 壮年期B 高齢期D
3-3	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	38.7%	87.4%	50.0%以上	A
3-4	喫煙によって歯周病にかかりやすくなることを知っている人の割合	青年期-69.7% 壮年期-69.3% 高齢期-71.9%	青年期-45.5% 壮年期-33.3% 高齢期-28.4%	各期において 100.0%	E

* 3

* 3：前回調査（平成29年度健康と生活習慣に関するアンケート）と今回調査の選択肢が異なるため、評価困難としている

(4) 食育推進計画

指 標		ベースライン (2016)	現状値 (2023)	目標値 (2023)	評価 (2016⇒2023)	
4-1	副菜を1日5つ(SV)以上食べる人の割合(野菜摂取量)	男性	67.6%	2.4%	75.0%以上	E
		女性	66.7%	3.5%	75.0%以上	E
4-2	主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合	91.2%	74.9%	95.0%	C	
4-3	適量を心がけて食べている人の割合	88.2%	81.4%	90.0%	C	
4-4	栄養成分表示を参考にしている人の割合	成人	58.0%	50.9%	60.0%	C

* 4

* 4

* 4：前回調査（平成29年度健康と生活習慣に関するアンケート）と今回調査の選択肢が異なるため、評価困難としている

評価基準

A	目標達成
B	改善傾向
C	変わらない
D	悪化傾向
E	評価困難

※1%以内を変わらないとした

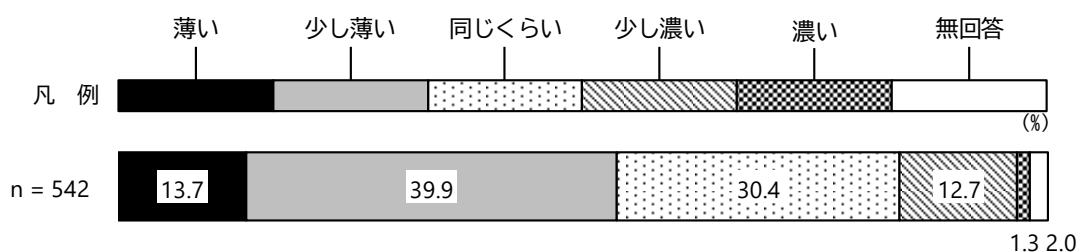
調査結果(抜粋)

本年度のアンケート調査結果のうち、指標として使用している設問を中心に、以下に掲載する。
 なお、調査結果報告書本編において、設問の全問掲載及びクロス集計結果を掲載している。

(1) 【健康指標 1-1】 家庭の味付けについて

- 家庭の味付けについては、全体では「少し薄い」が39.9%と最も高く、次いで「同じくらい」(30.4%)、「薄い」(13.7%)となっている。
- 外食と比べて家庭の味付けが薄いと感じる人の割合(「薄い」+「少し薄い」)は、目標値の70.0%に対して、男性52.4%、女性52.1%となっている。

問 19 外食と比べて、あなたの家庭の味付けはどうですか。(○は1つだけ)



【食事の味付けについて：性別】

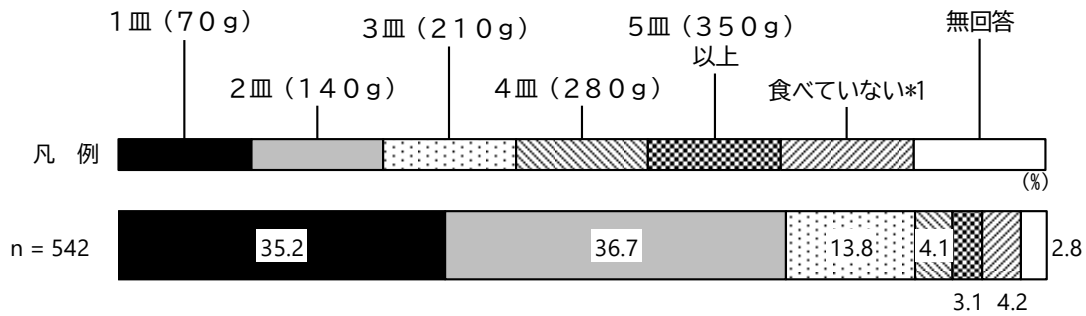
		n	薄い	少し薄い	同じくらい	少し濃い	濃い	無回答
全体		542	13.7	39.9	30.4	12.7	1.3	2.0
性別	男	208	13.0	39.4	33.7	10.1	1.4	2.4
	女	311	13.2	38.9	29.9	15.1	1.0	1.9

(2) 【食育指標 4-1】 野菜摂取量について

- 1日当たりの野菜の摂取量については、全体では「2皿 (140g)」が36.7%と最も高く、次いで「1皿 (70g)」(35.2%)、「3皿 (210g)」(13.8%)となっている。
- 野菜摂取量 350g以上の割合は、目標値の75.0%に対して、男性2.4%、女性3.5%となっている。

問 18 1日当たりどのくらいの量の野菜を食べていますか。(○は1つだけ)

※1皿の目安は約70gです。



【野菜摂取量について：性別】

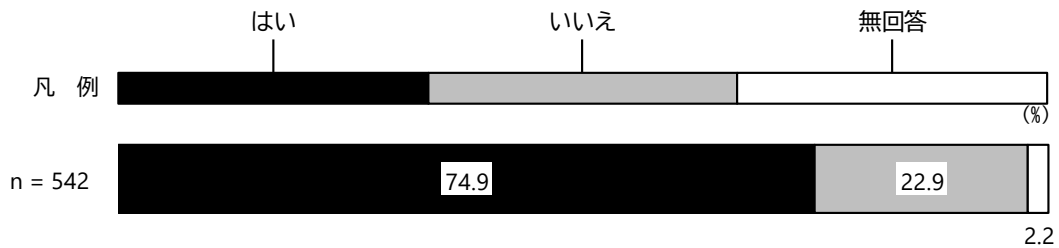
		n	1皿 (70g)	2皿 (140g)	3皿 (210g)	4皿 (280g)	5皿 (350g) 以上	食べていない *1	無回答
全体		542	35.2	36.7	13.8	4.1	3.1	4.2	2.8
性別	男	208	44.2	27.4	13.9	2.9	2.4	5.3	3.8
	女	311	29.9	42.1	13.8	4.8	3.5	3.5	2.3

*1 前回調査では、選択肢が「毎日食べない」となっている。

(3) 【健康指標 1-2・食育指標 4-2】 食事のバランスについて

- 主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしているかについては、全体では「はい」が74.9%、「いいえ」が22.9%となっている。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせている人の割合は、目標値の100.0%（健康）、95.0%（食育）に対して、74.9%となっている。

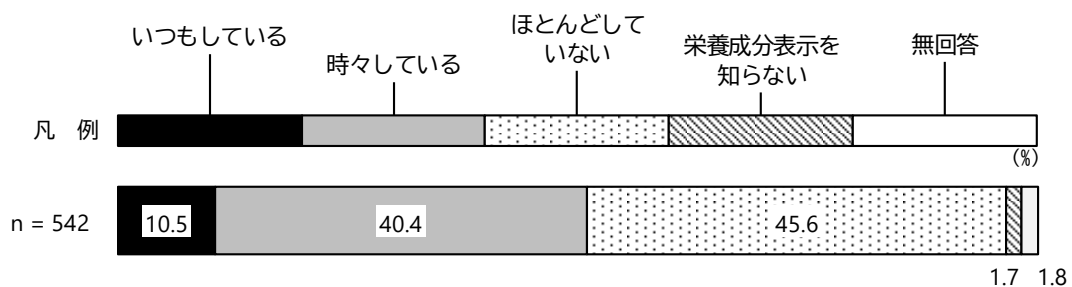
問 17 主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしていますか。(○は1つだけ)



(4) 【健康指標 1-3・食育指標 4-4】 栄養成分表示について

- 外食や食品購入の際に、栄養成分表示を参考にするかについては、全体では「ほとんどしていない」が45.6%と最も高く、次いで「時々している」(40.4%)、「いつもしている」(10.5%)となっている
- 栄養成分表示を参考にしている人の割合（「いつもしている」+「時々している」）は、目標値の60.0%に対して、50.9%となっている。

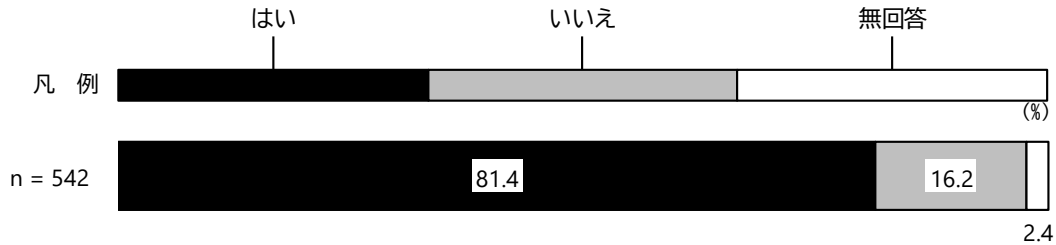
問 15 ふだん外食をするときや食品を買うときに、栄養成分表示を参考にしていますか。(○は1つだけ)



(5) 【健康指標 1-4・食育指標 4-3】 食事の食べる量について

- 食事は適量を心がけているかについては、全体では「はい」が81.4%、「いいえ」が16.2%となっている。
- 食事の適量を心がけて食べている人の割合は、目標値の100%（健康）、90.0%（食育）に対して、81.4%となっている。

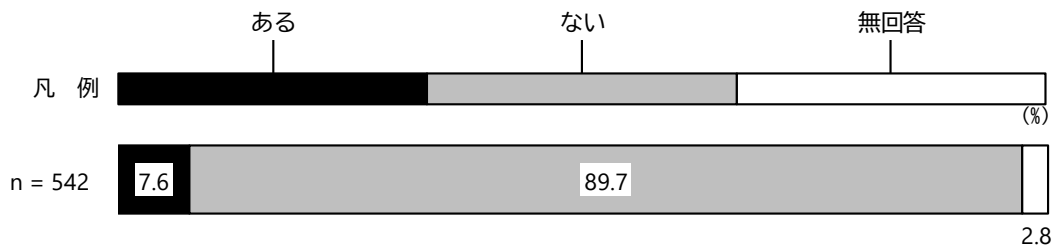
問 16 食事は適量を心がけて食べるようにしていますか。(○は1つだけ)



(6) 【健康指標 1-5】 健康づくり事業について

- 町の健康づくり事業に参加したことがあるか（過去1年以内）については、全体では「ない」が89.7%、「ある」が7.6%となっている。
- 年代別にみると、年代が高くなるにしたがって町の健康づくり事業に参加したことが「ある」割合が高い。
- 町の健康づくり事業に参加したことがある人の割合は、目標値の50.0%に対して、7.6%となっている。

問 40 過去1年以内に、町の健康づくり事業に参加したことはありますか。(○は1つだけ)



【健康づくり事業について：男女別・年代（3区分）別】

		n	ある	ない	無回答
全体		542	7.6	89.7	2.8
性別	男	208	6.7	91.3	1.9
	女	311	8.0	88.7	3.2
年代別	20～39歳	110	1.8	97.3	0.9
	40～59歳	165	5.5	92.1	2.4
	60歳以上	266	11.3	85.0	3.8

(7)【健康指標 1-6・歯と口腔指標 3-4】 たばこの害について

- たばこの害について、全体では「肺がんの原因になる」が93.5%と最も高く、次いで「妊婦の喫煙は赤ちゃんに悪影響を与える」(72.1%)、「気管支炎の原因になる」(68.1%)となっている。
- 喫煙の健康影響に関する知識がある人の割合は、目標値の100.0%に対して、全ての項目で下回っている。
- 喫煙によって歯周病にかかりやすくなることを知っている人の割合は、基準となるライフステージの年齢区分が判断困難のため評価困難であるが、年代別(3区分)で見ると、20～39歳45.5%・40～59歳33.9%・60歳以上30.1%となっている。

問30 たばこの害について、どんなことを知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

		n	肺がんの原因になる	ぜんそくの原因になる	気管支炎の原因になる	心臓病の原因になる	脳卒中の原因になる	胃潰瘍の原因になる	妊婦の喫煙は赤ちゃんに悪影響を与える	歯周病にかかりやすくなる	D)慢性閉塞性肺疾患(COPD)になる	その他	知っていることはない	無回答
全体		542	93.5	64.8	68.1	43.2	47.6	22.1	72.1	34.3	34.1	1.1	0.7	3.5
性別	男	208	89.9	65.9	70.7	49.5	53.4	26.9	60.1	34.6	30.8	2.4	1.4	4.3
	女	311	96.1	64.6	66.9	38.9	44.1	18.3	81.0	34.7	36.0	0.3	0.3	2.6
年代別	20～39歳	110	93.6	62.7	68.2	40.9	51.8	21.8	84.5	45.5	28.2	2.7	0.0	3.6
	40～59歳	165	92.7	64.2	63.0	40.6	51.5	23.6	77.6	33.9	39.4	0.6	1.8	3.0
	60歳以上	266	94.0	65.8	71.1	45.5	43.2	21.4	63.9	30.1	33.5	0.8	0.4	3.8

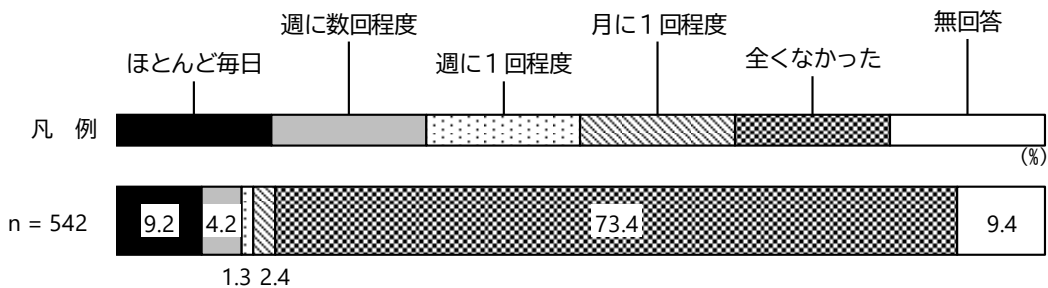
(8)【健康指標 1-7】受動喫煙について

- 家庭内での受動喫煙の機会の有無（直近1か月）については、全体では「全くなかった」が73.4%と最も高く、次いで「ほとんど毎日」(9.2%)、「週に数回程度」(4.2%)となっている。
- 家庭以外での受動喫煙の機会の有無（直近1か月）については、全体では「全くなかった」が62.0%と最も高く、次いで「月に1回程度」(11.6%)、「ほとんど毎日」(6.8%)となっている。
- 『月に1回以上の受動喫煙の機会』（「ほとんど毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）は、①家庭内では17.1%、②家庭以外では27.6%となり、家庭以外での受動喫煙の機会がより多くなっている。
- 受動喫煙の機会のある人の割合は、家庭内、家庭以外ともに目標値の0.0%に対して、下回っている。

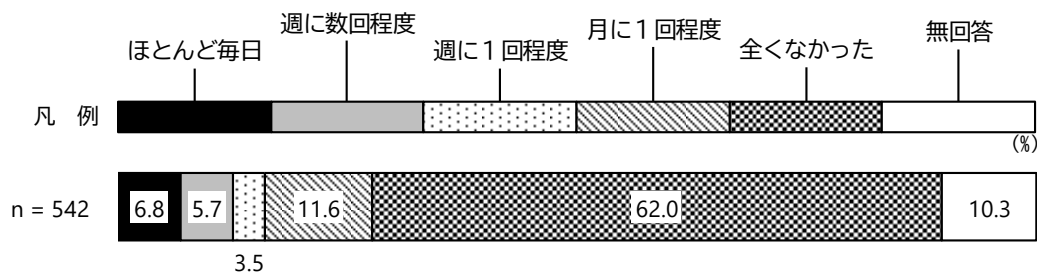
問 29 この1か月に自分以外の人のたばこの煙を吸う機会がありましたか。

(○はそれぞれ1つずつ)

①家庭内



②家庭以外

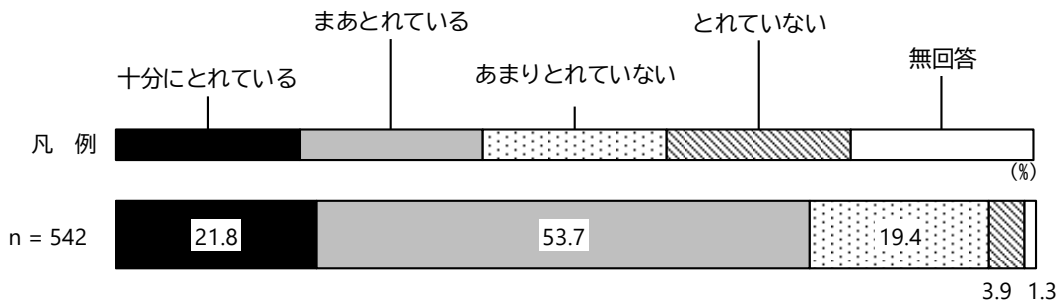


*前回調査では、家庭内・家庭外に分けて調査していない

(9) 【自死指標 2-1】 睡眠による休養について

- 睡眠による休養が十分とれているかについては、全体では「まあとれている」が53.7%と最も高く、次いで「十分にとれている」(21.8%)、「あまりとれていない」(19.4%)となっている。
- 睡眠による休養が十分とれていない人の割合(「あまりとれていない」+「とれていない」)は、目標値の15.0%に対して、23.3%となっている。

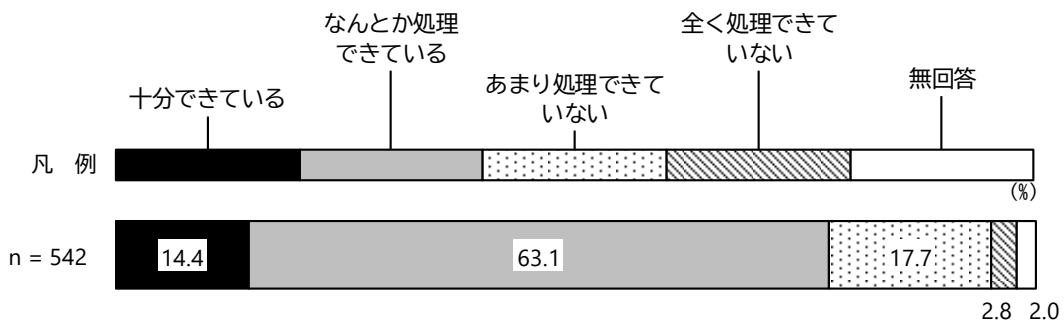
問 36 この1か月の間、睡眠による休養が十分とれていると思いますか。(○は1つだけ)



(10) 【健康指標 1-8・自死指標 2-2】 ストレス等の解消法について

- 不満、悩み、苦労、ストレスなどを処理できているかについては、全体では「なんとか処理できている」が63.1%と最も高く、次いで「あまり処理できていない」(17.7%)、「十分できている」(14.4%)となっている。
- ストレスを上手に解消できている人の割合(「十分できている」+「なんとか処理できている」)は、目標値の80.0%に対して、77.5%となっている。

問 33 あなたは、不満、悩み、苦労、ストレスなどを自分なりの解消法で処理できていると思いますか。(○は1つだけ)

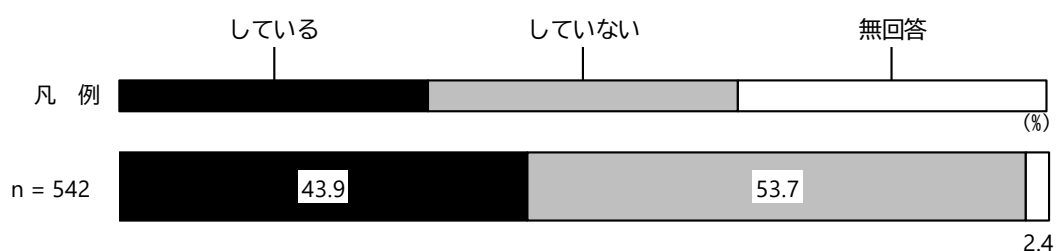


(11) 【健康指標 1-9・自死指標 2-3】 趣味やボランティア活動について

- 趣味やスポーツ、ボランティアなどの活動をしているか（過去半年以内）については、全体では「していない」が53.7%、「している」が43.9%となっている。
- 趣味やスポーツ、ボランティアなどの自主的活動をしている人の割合は、目標値の50.0%に対して、43.9%となっている。

問 42 過去半年以内に、趣味やスポーツ、ボランティアなどの活動をしていますか。

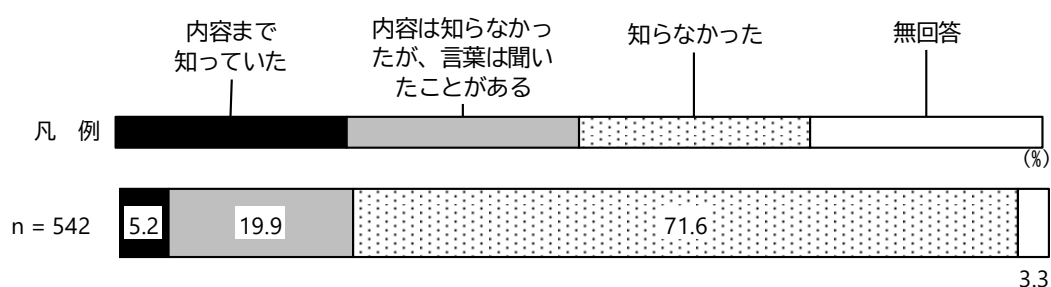
(○は1つだけ)



(12) 【自死指標 2-4】 「ゲートキーパー」について

- 自殺対策に関する「ゲートキーパー」の認知度については、全体では「知らなかった」が71.6%と最も高く、次いで「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(19.9%)、「内容まで知っていた」(5.2%)となっている。
- 「ゲートキーパー」の認知度（「内容まで知っていた」+「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」）の割合は、目標値の15.0%に対して、25.1%となっている。

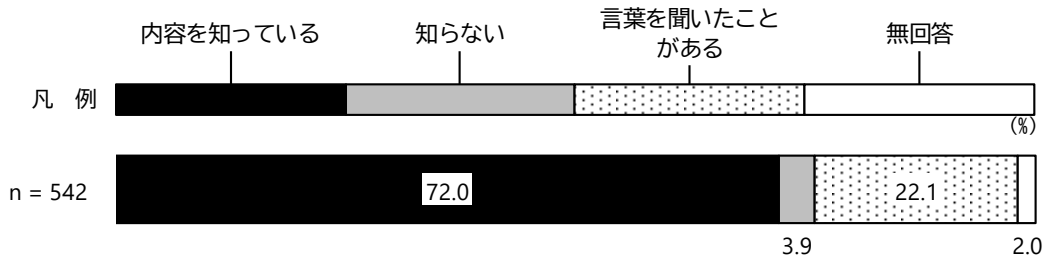
問 39 あなたは、自殺対策に関する「ゲートキーパー」（自殺サインに気づき、適切な対応を取れる人）について知っていましたか。(○は1つだけ)



(13) 【健康指標 1-10】メタボリックシンドロームについて

- メタボリックシンドロームについては、全体では「内容を知っている」が72.0%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある」(22.1%)、「知らない」(3.9%)となっている。
- 「メタボリックシンドローム」の認知度(「内容を知っている」+「言葉を聞いたことがある」)の割合は、目標値の80.0%に対して、72.0%となっている。

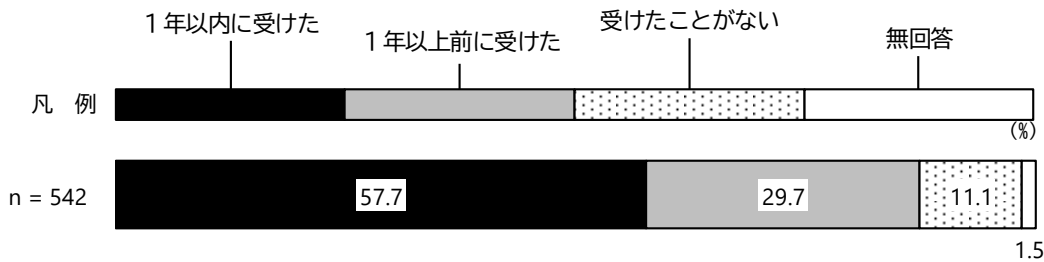
問 12 メタボリックシンドロームについて、内容を知っていますか。(○は1つだけ)



(14) 【歯と口腔指標 3-3】歯の清掃について

- 歯の清掃を受けたことがあるかについては、全体では「1年以内に受けた」が57.7%と最も高く、次いで「1年以上前に受けた」(29.7%)、「受けたことがない」(11.1%)となっている。
- 定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合(「1年以内に受けた」+「1年以上前に受けた」)は、目標値の50.0%以上に対して、87.2%となっている。

問 23 歯石の除去や専門家による歯の清掃を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

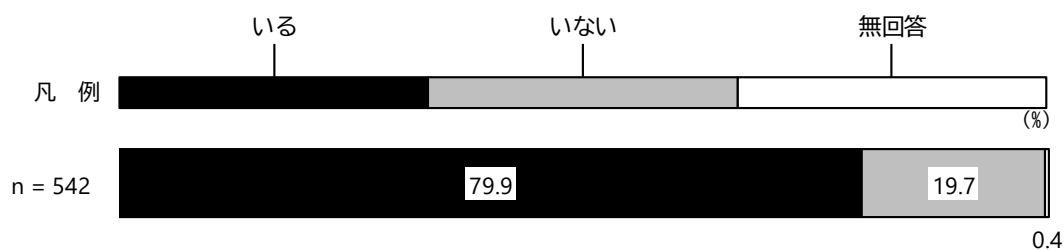


(15) 【歯と口腔指標 3-2】 かかりつけ歯科医について

●かかりつけ歯科医の有無については、全体では「いる」が79.9%、「いない」が19.7%となっている。

●かかりつけ歯科医を持つ割合は、基準となるライフステージの年齢区分が判断困難のため評価困難であるが、年代別（3区分）で見ると、20～39歳68.2%・40～59歳78.2%・60歳以上86.1%となっている。

問 24 かかりつけ歯科医がいますか。(○は1つだけ)



【かかりつけ歯科医について：男女別・年代（3区分）別】

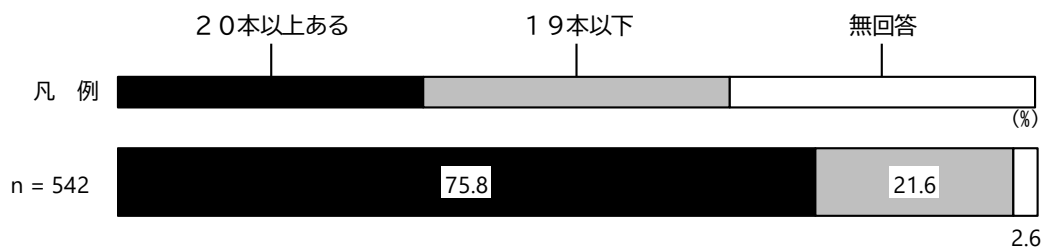
		n	いる (%)	いない (%)	無回答 (%)
全体		542	79.9	19.7	0.4
性別	男	208	73.6	26.0	0.5
	女	311	84.2	15.4	0.3
年代別	20～39歳	110	68.2	31.8	0.0
	40～59歳	165	78.2	21.8	0.0
	60歳以上	266	86.1	13.2	0.8

(16) 【歯と口腔指標 3-1】 自分の歯について

- 自分の歯の本数については、全体では「20本以上ある」が75.8%、「19本以下」が21.6%となっている。
- 80歳以上で20本以上の歯を保持する割合は、目標値の50.0%以上に対して、53.3%となっている。

問 25 自分の歯は何本残っていますか。(○は1つだけ)

※被せ物や詰め物をしている歯も数えます。インプラントや入れ歯は含みません。



【自分の歯について／性別・年代別】

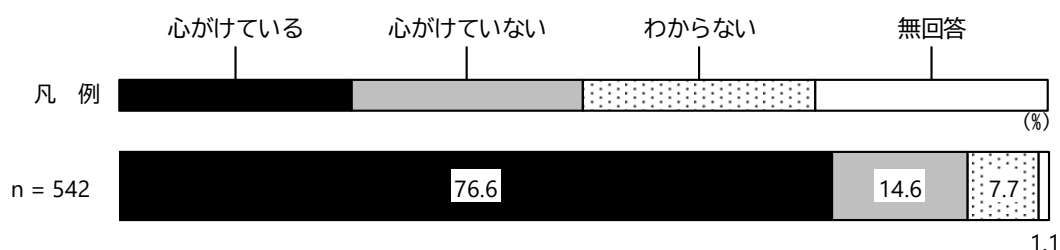
		n	20本以上ある			19本以下			無回答		
			75.8			21.6			2.6		
全体		542	75.8			21.6			2.6		
性別	男	208	71.6			25.0			3.4		
	女	311	79.7			18.0			2.3		
年齢別	80歳以上	30	53.3			36.7			10.0		

以下は、アンケート調査結果のうち、指標評価の項目として使用されていない設問について、一部結果を掲載する。

(17) 健康意識について

- 健康の維持を心がけているかについては、全体では「心がけている」が76.6%と最も高く、次いで「心がけていない」(14.6%)、「わからない」(7.7%)となっている。
- 年代別にみると、年代が低くなるにしたがって健康の維持を「心がけていない」割合が高い。

問 10 自分の健康を維持するように、心がけたり努力したりしていますか。(○は1つだけ)



【健康意識について／性別・年代（3区分）別・居住地域別】

		n	心がけている	心がけていない	わからない	無回答
全体		542	76.6	14.6	7.7	1.1
性別	男	208	74.5	15.9	8.7	1.0
	女	311	77.8	13.5	7.4	1.3
年代別	20～39歳	110	58.2	26.4	13.6	1.8
	40～59歳	165	74.5	15.8	8.5	1.2
	60歳以上	266	85.3	9.0	4.9	0.8
居住地域別	松島地区	73	80.8	8.2	11.0	0.0
	高城地区	133	75.2	16.5	7.5	0.8
	磯崎地区	139	77.0	14.4	7.2	1.4
	本郷・初原・桜渡戸地区	86	76.7	15.1	8.1	0.0
	根廻・手樽地区	40	82.5	10.0	5.0	2.5
	北小泉・上竹谷・下竹谷・幡谷地区	68	72.1	19.1	7.4	1.5

(18) 新型コロナウイルス感染症の影響について

●新型コロナウイルス感染症の影響による変化については、項目別にみると、「増えた」では「1 体重」が17.0%、「減った」では「10 外出の頻度」が46.3%と最も高くなっている。

問11 新型コロナウイルス感染症の影響により、以下の項目について変化がありましたか。

(○は各項目1つだけ)

	n	(%)				
		増えた	変わらない	減った	もともとない	無回答
1 体重	542	17.0	69.0	10.1		3.9
2 1週間の運動日数	542	4.8	60.0	16.4	14.0	4.8
3 運動を行う日の平均運動時間	542	5.9	56.8	15.1	17.7	4.4
4 飲酒の頻度	542	5.4	39.9	11.8	38.7	4.2
5 1日当たりの飲酒の量	542	4.4	38.2	12.4	40.4	4.6
6 喫煙の頻度	542	1.7	19.2	2.6	71.2	5.4
7 睡眠時間	542	4.4	78.6	11.8		5.2
8 社会活動・人とのつながり	542	3.5	56.5	35.6		4.4
9 経済(収入)	542	2.4	64.9	28.2		4.4
10 外出の頻度	542	3.1	46.3	46.3	1.7	2.6

※1、6～9の選択肢は「増えた」、「変わらない」、「減った」のみ

調査結果の特徴

各計画別の調査結果について、指標として使用している設問を中心に、特徴を以下に記載する。

(1) 健康増進計画

- 栄養・食生活では、食事のバランス、食事の食べる量など、中間値から減少しており、食への関心を高め、望ましい食習慣を確立するための知識の普及が必要となる。
- 栄養成分表示を参考にしている割合は町の目標には達成していないものの、県の目標値を達成している。
- 身体活動・運動では、町主催の健康づくり事業に参加する割合が減少している。中間値（2017）では45.9%だった割合が7.6%まで下がっているが、過去1年以内の参加状況を確認する設問であるため、新型コロナウイルス感染症による影響が考えられる。年代が低くなるにしたがって町の健康づくり事業に参加したことが「ない」割合が高くなっているため、特に若い世代、働き世代に向けた運動の普及啓発が必要となる。
- たばこについては、喫煙による健康影響に関する知識についてはどれも目標値を下回っている。喫煙は、がん・循環器疾患・糖尿病等のリスク要因となるため、喫煙率減少に向けて喫煙の健康影響に関する知識の普及が必要となる。
- こころの健康では、ストレスを上手に解消できている人の割合や趣味やスポーツ、ボランティアなどの自主的活動をしている人の割合が、現状では目標には達成していないものの中間値を上回り、改善傾向になっている。
- 循環器疾患・糖尿病では、メタボリックシンドロームの認知度が72.0%と、ベースライン(2012:62.6%)より増加となっていたものの、中間値(76.9%)より僅かに減少しているため、引き続き理解と予防に向けた取り組みを進めていく必要がある。

(2) 自死対策計画

- 睡眠による休養を十分に取れていない割合は、現状では目標には達成していないものの中間値を上回り、改善傾向になっている。
- 自殺対策に関する「ゲートキーパー」の認知度については目標を達成しているが、「知らなかった」割合が7割を超えている。自死対策において様々な悩みや生活上の困難を抱える人のサインに気づき、関わりを通して、生きる支援に関わる人材の育成と、町民への普及啓発が必要となる。

(3) 歯と口腔の健康づくり基本計画

- 80歳以上で20本以上の歯を保持する割合は、県、町の目標値ともに達成している。
- 歯の清掃を受けたことがある割合については、目標を達成し8割を超えている。
- かかりつけ歯科医を持つ割合は、全体で約8割となっており、年代が高くなるほど割合が高い。
- 生涯を通じた歯や口の健康維持のため、定期受診や歯石除去・歯面清掃の重要性の普及啓発など、歯と口腔の健康づくりに取り組めるよう情報提供に努めていく必要がある。

ある。

(4) 食育推進計画

- 1日当たりの野菜の摂取量については、全体では「2皿(140g)」が36.7%と最も高く、次いで「1皿(70g)」(35.2%)となっており、1日あたりの接種目安量とされる350g以上を摂取している方の割合は男性2.4%、女性3.5%と少なくなっている。
- バランスの取れた食生活や健康的な生活習慣を実践することで生活習慣病を予防することができる為、望ましい食習慣に向けた食育を推進していくことが必要となる。